

8月22日(金) 午後6時開演

仕舞 花篋ハナカケ  
放下シテ梅若修一  
梅若雅一

能楽 東北  
シテ 梅若 猫義

狂言 柿山伏  
シテ 山本 東次郎

能楽 土蜘蛛  
シテ 梅若 玄祥

8月23日(土) 午後6時開演

仕舞 定家  
梅若 善高  
梅若 義一  
織之段  
シテ 池内 光之助

平舞 雲林院  
シテ 梅若 玄祥

狂言 狐塚  
小唄入 山本 東次郎

能楽 土蜘蛛  
シテ 梅若 猫義

前売券開始日7月1日(火)

会場 日光山輪王寺(三仏堂前)  
入場料 A席7,000円/B席5,000円

入場券販売先  
日光山輪王寺 ☎0286-54-0501  
東武トナリ橋手組支店 ☎028-636-0000 市各支店  
東武宇都宮百貨店5F友の会センター ☎028-651-5000 市各支店  
株JTB日通東法入道茶都宮支店 ☎028-614-2001  
栃木県総合文化センタープレイガイド ☎028-643-1013

お問い合わせ先  
日光山輪王寺 ☎0286-54-0501

世界遺産登録15周年記念

第27回 日光山輪王寺

新能



## 開催の趣旨

「能・狂言」は、約600年という長い時間の中で洗練されてきた、現存する世界最古の舞台芸術で、2001年ユネスコの無形文化遺産として登録されました。「能」は舞踏・劇・音楽によって普遍的な人間の本質や情念を描き出し、「狂言」は明るく親しみやすい「笑いの芸術」で、これらを夜、屋外で篝火を焚いて演じるのが「新能」です。

さて昨年、2020年の東京オリンピック開催が決定しました。これを契機に多くの外国人が日本文化の素晴らしさに触れて頂く機会が増えることが期待され、文部科学省は、国民の日本古来の古典芸能や芸術に対する理解が、より一層深まるよう注力したいとの方針を打ち出しております。

こうした時代の要請に応えるべく、第27回目を数える日光山輪王寺「新能」も、関係各位のご助力により、見応えある演目を中心に、当代一流の演者の先生方をお迎えしての開催となりました。

日光山の静謐な夜空のもと、世界遺産を舞台に演じられる幽玄の世界を通じて、一人でも多くの方に、日本の伝統芸術の奥深さ、素晴らしさに触れて頂く一助となれば幸いです。

平成26年6月 日光山輪王寺新能実行委員会

## 第一日

平成26年8月22日(金)

午後5時開場 / 午後6時開演

仕舞 **花筐** クルイ  
放ほう下か僧そう 小こ叢そう

シテ 梅若 修一  
シテ 梅若 雅一

能楽 **東北**

シテ 二世 梅若 猶義

旅の僧が都に着き、東北院の梅を眺めていると、若い女が現れ、この寺はもと中宮上東門院の御所で、そのころ仕えていた和泉式部が植えたのがこの梅だと教え、実は自分がこの花の主だといって姿を消す。(中入) 僧が読経をしていると、和泉式部の霊が生前の姿で現れ、昔、門前に車で来なかった開白藤原道長が車中で読経していた声を聞いて、「門(かど)のほか法(のほ)の車の音聞けばわれも火宅を出でにけるかな」と詠んだことが思い出されると僧に話しかける。式部はなお和歌の徳を述べ、都の東北の鬼門を守るこの寺の風物が仏法の教義に通じていることを物語り、舞を舞い、式部の居室であったという方丈に入ったと思ううちに、僧の夢は覚める。恋多き歌人和泉式部を主人公としながら、恋物語ではなく、梅を主軸に叙景的につづっている。

狂言 **柿山伏**

シテ 人間国宝 山本 東次郎

出羽羽黒山の山伏が大峰、葛城で修行して帰国の途中、道端の柿の木に登って柿を食べはじめ。柿畑の持ち主が見つけて腹を立て、木陰に隠れた山伏をなぶってやろうと、犬、猿、鷹に見立てる。そのたびに山伏は鳴きまねをするが、畑主が鷹は飛ぶものだと思わせたので山伏もつられて高い木から飛び降り腰を打ってしまう。怒った山伏は法力で畑主の体をすくませ、腰の治療をするよう命ずるが、畑主は背負った山伏を振り落とし逃げてゆく。

能楽 **土蜘蛛**

シテ 五十六世梅若六郎 梅若 玄祥

源頼光の館へ、侍女の胡蝶が薬を持って帰って来る。頼光は重病で苦しんでいるのである。そこへ怪しげな僧が現れて、頼光に蜘蛛の巣糸を投げかけるが、頼光の太刀先に傷を負い姿を消す。(中入) 物音を聞いて駆けつけた独武者は目ざとく血痕を見つけ、その跡をたどって怪物の行方を突きとめることにする。独武者が武士たちを連れて葛城山にたどりつくと、岩陰の塚から鬼神が現れ、土蜘蛛の精魂であると名のって人々に巣糸を投げ、さんざん苦しめるがついに退治される。

## 第二日

平成26年8月23日(土)

午後5時開場 / 午後6時開演

仕舞 **定家**  
鶉う之の段だん

シテ 梅若 善高  
シテ 池内 光之助

半能 **雲林院**

シテ 五十六世梅若六郎 梅若 玄祥

『伊勢物語』の愛読者芦屋公光が、業平と業平の愛人二条后が都紫野の雲林院にたたずんでいる夢をみ、昔ゆかしさに雲林院を訪ねる。桜の花盛りなので一枝たおると、老人が現れてこれをとがめ、公光と花を折ることの是非を古歌で争い、木陰に寝て待て、夢で語ろうぞ、と姿を消す。(中入) 公光のその夜の夢に業平がありし日の姿をみせ、『伊勢物語』の秘事を明かし、月明かりの桜のもとで舞の袖を返すのだった。

(※今回は半能で中入り後を演能いたします)

狂言 **狐塚** 小唄入

シテ 人間国宝 山本 東次郎

豊作を喜ぶ主人は、狐塚の田の鳥を追うよう太郎冠者と次郎冠者に命ずる。二人は狐塚には悪い狐が出ると話しながら田につき、鳴子で鳥を追う。主人が夜長をねぎらうため酒を持って訪ねると、二人は狐が化けたものと思ひ松葉をいぶし主人を縛り上げる。しかし間違いとわかり、主人が追い込む。

能楽 **土蜘蛛**

シテ 二世 梅若 猶義

源頼光の館へ、侍女の胡蝶が薬を持って帰って来る。頼光は重病で苦しんでいるのである。そこへ怪しげな僧が現れて、頼光に蜘蛛の巣糸を投げかけるが、頼光の太刀先に傷を負い姿を消す。(中入) 物音を聞いて駆けつけた独武者は目ざとく血痕を見つけ、その跡をたどって怪物の行方を突きとめることにする。独武者が武士たちを連れて葛城山にたどりつくと、岩陰の塚から鬼神が現れ、土蜘蛛の精魂であると名のって人々に巣糸を投げ、さんざん苦しめるがついに退治される。

★入場券取り扱い (お問い合わせは下記へ) ※入場券郵送ご希望の方は、下記(日光山輪王寺)宛 現金書留で料金をお送り下さい。郵送料が必要です。

日光山輪王寺 ☎0288-54-0531  
〒321-1494 栃木県日光市山内2300 www.rinnoji.or.jp

(一社)日光市観光協会 ☎0288-22-1525

※お問い合わせのみ受け付けます

東武宇都宮百貨店5F友の会センター(会員のみ販売) ☎028-651-5555 (友の会直通)

東武トラベル(株) 宇都宮支店 ☎028-638-8803 他 各支店

(株)JTB関東法人営業宇都宮支店 ☎028-614-2001

栃木県総合文化センター プレイガイド ☎028-643-1013